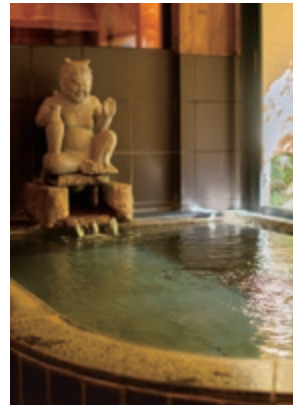


「特集」

# 奈良、ととのうお湯めぐり

文 倉橋みどり

- 18 その一 山にともる湯宿の灯  
レトロ温泉郷、洞川へ
- 28 コラム かくも良き、奈良の温泉  
文 樽井由紀
- 30 その二 心を洗うお湯  
名刹の浴室とは
- 34 もっと入りたい！ 奈良、癒やしのお湯
- 36 奈良、ととのうお湯めぐり [案内図]



奈良・洞川温泉で約500年続く「宿 花屋徳兵衛」の風呂「後鬼の湯」は、身体がゆっくりほぐれるぬるめの温泉

特別企画

## 名松線、冬の旅

文 服部夏生

- 38 名松線、冬の旅  
文 服部夏生
- 52 おいしいもんには理由がある 文 土井善晴  
世界を味わう卓袱料理 [長崎市]

- 7 京都の路地まわり道  
文 千宗室
- 9 ジャズ喫茶の時代  
ひとときエッセイ「そして旅へ」  
文 野田隆
- 11 汽車の思い出に浸る旅  
あの日の音  
文・絵 北阪昌人
- 12 わたしの20代  
風間杜夫 (俳優)
- 34 柳家喬太郎の旅メシ道中記
- 45 延岡・直ちゃんの元祖チキン南蛮  
[宮崎県延岡市]
- 46 地元のエール これ、いいね！  
飯田の水引 [長野県飯田市]
- 48 みほとけさんの心に響く奈良仏めぐり  
聖林寺・十二面観音像 [奈良県桜井市]
- 56 旅するリラックマ  
住吉大社 [大阪市]
- 77 ホリホリの旅の絵日記 文・絵 堀道広  
心地いい店がたくさんある街  
[岐阜県高山市]



薄暮の洞川温泉は、町のあちこちに提灯がとまり、星も輝きだすマジックアワー  
イラスト=宮川海奈

- 58 旬 News & Topics
- 60 美 Art & Entertainment
- 62 遊 Event & Festival

- 64 旅の小箱 from J R 西日本、J R 東海  
第58回「京の冬の旅」キャンペーン
- 66 世界遺産の寺院で特別なひとときを  
定番から新スポットまで楽しむ福岡旅
- 68 Japanese Beauty Hokuriku キャンペーン  
北陸へ初詣に行こう！
- 69 「かにカニ日帰りエクスプレス」  
冬の飛騨路キャンペーン
- 70 ASTY SQUAREが  
リニューアルでさらに充実！
- 72 「リニア・鉄道館」で  
冬のイベント開催中

- 74 ひととき倶楽部  
読者からのお便り  
今月のプレゼントなど
- 76 次号のお知らせ
- 78 ルートマップ  
東海道・山陽新幹線時刻表

# 奈良、 ととのう お湯めぐり

数々の世界文化遺産で知られる奈良は、

洞川どろがわに十津川とつかわ、奥吉野など、

穴場の名湯が勢ぞろいする温泉県でもあります。

こうした山深い場所にある湯宿は、古来、

修験者や熊野詣での旅人を清め、癒やしてきました。



また、東大寺や法華寺といった古刹には  
「浴室」が伝えられており、僧侶の沐浴や、  
庶民救済のための入浴施設として  
使われてきた歴史があります。  
洞川温泉や古刹をめぐりながら、  
奈良とお湯のホットな関係を探ります。

文〓倉橋みどり  
Kurahashi Midori

写真〓佐々木実佳  
Sasaki Mika

その  
①  
山にともる  
湯宿の灯

# レトロ温泉郷、洞川へ

(奈良県吉野郡天川村)

奈良県中部、世界文化遺産に認定された修験道の修行場・大峯奥駈道の登山口がある洞川温泉。修験者や各地の講の者たちが利用してきた古格ある湯宿に泊まり、それぞれの自慢の湯を、外湯めぐりで楽しみます。

ホタル橋に持影橋、その名もゆかしい橋を渡ると、そこはもう洞川温泉街だ。古くから大峯山・山上ヶ岳の登山口として栄え、標高は約820メートル。風は、奈良市内と比べるとずいぶん鋭いが、空気が澄み切っているせいか心地よい。そして、街の風情は、初めて訪れた人にもどこかつかしく、やさしいのだ。車と人が譲り合いながら行き交う通りの名前は行者通り。その両側に並ぶ建物は和風の木造がほとんどで、平屋か2階建てのものばかり。純喫茶、名水豆腐店、「陀羅尼助丸」という菓を売る店、そして、間口の広い宿屋が軒を並べる。そこそこに揺れる提灯を眺めつつ、ゆつたりと歩いていると、まるで違う時代、昭和の最後のあたりにタイムスリップしたような気分になる。

実は、ここ洞川が湯の町となった歴史は浅い。1980(昭和55)年に試掘をスタートし、温泉が出たのは3年後のこ

とだったという。しかし、行者とも山伏とも呼ばれる修験者たちを、聖なる大峯山での行へと送り出し、また、無事行を成し遂げた体を癒やす行者宿の地としての歴史は古い。実に1300年前、修験道の祖である役行者(役小角)までさかのぼる。

その長い歴史をひもとくには、温泉街から山上川を挟んで北側にある古刹・大峯山龍泉寺へと参拝しなくてはならない。

**役行者が開いた龍泉寺**

朱塗りの立派な山門をくぐったとたん、空気が変わった気がした。張り詰めたように清らかな空気で満ちているのを感じ、背筋を伸ばした。

奈良時代、役行者が大峯山で行をしていた際、ふもとの洞川の地で、岩場から湧き出る青く澄みきった泉を見つけた。その泉に龍王を感得、「竜の口」と名付け、

洞川の朝、町の中心を流れる山上川の向こうに、山霧が立ちのぼる







宿 花屋徳兵衛の半露天「後鬼の湯」。スタイリッシュな木造の「前鬼の湯」もある。前鬼・後鬼は役行者に仕えた鬼の夫婦の名前

度は昔ほど高くないですね」と銭谷さん。ひと昔前は、洞川に宿を取る修験者たちが、餞別をくれた方へのお返しとして大量に買うことも多かったというが、それも今では少なくなり、徐々に下がってきている売り上げを、アイデアでなんとか上向きに変えたいと銭谷さんは考えている。それを実践したのが、キハダの苦味を生かしたクラフトビール「山ねむるエール」。すぐ近くに醸造所も構え、評判も上々だ。

### 洞川最古の行者宿で温まる

山伏とも行者とも呼ばれる修験者たちは、多くの場合、講という宗教的グループに所属し、団体で修行へと赴く。地域によっては、山上ヶ岳への修行が、一人前の大人になるための通過儀礼としての意味を持つこともあった。経験豊かな者、初めて修行に挑む者……さまざまな修験者たちが、ここ洞川に宿を取り、心身の疲れを癒やしつつ、仲間同士の親睦も深めるひとときを過ごした。だから、温泉が出るずっと前から多くの宿があり、賑わってきたのだ。

洞川温泉街で最も古い宿という花屋徳兵衛はなやとくべゑは創業500年。室町時代から続く宿で、1838（天保9）年に記された『天和巡日記』にもその名が見える。当主の花谷芳春さんは17代目だ。

その  
①

心を洗うお湯

# 名刹の浴室とは

奈良の古刹にも、風呂が備え付けられているのをご存じでしょうか。法華寺では貧しい人々に入浴を施し、東大寺では僧侶や寺院の工事で汗を流した者たちの疲れを癒やしました。そこには実に奈良らしい、お湯の在り方を感じられます。



## 千人施浴の法華寺

奈良時代に総国分寺・東大寺に対し、

総国分尼寺として開かれた法華寺。開基

は光明皇后。聖武天皇とともに仏教に篤

く帰依したことが伝わる女性である。築

地塀には今なお皇室とのゆかりを示す5

本の線が引かれてある。この由緒ある古

刹には、奈良時代からの「浴室」がある。

「いまでいうサウナで、薬草を使った蒸

し風呂です。昭和の初め頃まで、定期的

に使われていたんですよ」と案内くださ

ったのは法華寺門主の樋口教香さん。

日本最古の風呂は、尼僧のためにでは

なく、広く民に開かれてきた。光明皇后

にまつわる有名な伝説「千人施浴」の舞

台もここである。

貧しい人々を救うことに力を注いだ皇

后は、そのひとつとして法華寺の一角に

浴室を設け、1000人の貧者の垢を流

すという誓いを立てた。その最後のひと

りが膿に爛れた病身であったが、皇后は

自らその膿を吸ったところ、その病人は  
たちまち光り輝く阿闍如来に変わられ  
たという伝説だ。

現在の建物（重要有形民俗文化財）が

江戸期の1766（明和3）年の再建に

幾度かの修理を加えたものであることも、

この浴室が「公衆浴場」であり続け、多

くの人の助けになってきたことの証しで

あろう。

薪をくべるときに薬草を使うというが、

奈良時代にどんな薬草を使っていたのか

ははっきりと伝わっていない。ただ、正

倉院に、宝物のみならず多くの薬草を献



[左] 法華寺の浴室。右の小さな屋根には、浴室のための井戸がある。扁額には「浴室」とある  
[右下] 寺でかわいがられている猫のチョッチャン。取材が気になるごようす



門主の樋口教香さん。「浴室には光明皇后の慈悲の心が表れています。その心を伝えていくことが大切だと思っています」



# （もっと入りたい!）奈良、癒やしのお湯

洞川のほかに、温泉地を抱える奈良。穴場の秘湯やラグジュアリーホテルなど、奈良に行ったら入りたい、癒やしのお湯をご紹介します。



## 【入之波温泉】<sup>やまばとゆ</sup> 山鳩湯

吉野川源流にある川上村の山鳩湯は、平安時代開湯の入之波〈しおのは〉温泉にある。吉野杉の森とダム湖を望む露天が秘湯感を演出する温泉だ。毎分500リットルも自噴するお湯は濃い黄金色で、湯に含まれるカルシウムがケヤキで造られた湯船に堆積して、鍾乳洞のような質感に。宿泊も可能で、ジビエやアマゴを使った鍋もいただける

☎ 0746-54-0262 ㊦ 吉野郡川上村入之波391  
近鉄八木駅または大和上市駅からバスで「杉の湯」下車。入之波行きに乗り換えて「終点」下車  
㊦ 日帰り入浴10時～16時（17時閉店）㊦ 大人900円、小学生以下500円 ㊦ 火・水曜（4月～10月は水曜のみ）

1 女湯の露天は陸橋の架かる大迫ダムの眺望が開放的 2 祖父が開いた山鳩湯を家族で守り続けているという3代目の中村直貴さん 3 お湯は少しぬるめで、のんびり浸かれる。カルシウムの堆積した湯船は一見の価値あり 4 入之波温泉は、享保年間（1716～36年）に原図が作成された「大和国細見図」の中でも「塩葉」として紹介され、「温泉浴室アリ」と記載されている

# 名松線、冬の旅

南北に長い三重県の真ん中あたりを、松阪駅から雲出川に沿って半円を描くように走る名松線。この路線は自然災害など

いくたびもの試練を乗り越え、今なお沿線の人々の心のよりどころとして深く愛されている。冬の1日、終点の伊勢奥津を訪ねる旅に出かけた。



比津—伊勢奥津駅間を走る名松線。松阪から1時間と少しで、深山の気配を楽しめる

「お兄さんも食べな」

まだ温もりが残る杉茸の混ぜご飯のパックを開けたところで、声をかけられた。

振り返ると男性が、たこ焼きのパックを抱えていた。僕が返事するよりも早く、店の女性が小皿に取り分けて、手渡してくれた。しどろもどろになって礼を言うと、歳の頃80くらいの男性は、いいよいよとばかりに手を振って、自分も1個、口にした。僕たちにお茶を淹れてくれたから、女性も分けてもらったたこ焼きを同僚と頬張りはじめた。実は彼女からは先ほど、賄い用のきぬかつぎも分けてもらっている。

ご馳走を前にしての遠慮は無粋であろう。僕も昼食をはじめることにした。

ここはJR名松線の終着駅、伊勢奥津。その駅前に設けられた観光案内交流施設

文 服部夏生  
I. Atorii Natsuo  
写真 三原久明  
Mihara Hisaaki



地図制作 = atelier PLAN



街道沿いの元呉服店のショーウィンドウには、のれんの代わりに、華やかな着物が飾られていた





伊勢奥津は江戸時代、伊勢本街道の宿場町としてお伊勢参りの参拝客で賑わった。のちに林業で栄え、最盛期には映画館やパチンコ店もあったという。駅を下りて目に入ったのは、意匠をこらした「のれん」。街道沿いの家々が、旅籠や薬屋、菓子屋、畳屋などかつて営んでいた店の屋号や店名を記したのれんを、旅人を出迎えるかのように掲げている。中央の写真は、奥津と名松線の昔話を聞かせてくれた結城實さん

「ひだまり」の店内である。暖かい陽射しの中、美味しいですねえと言いつつ合いながら食事をしていると、初めての街に来た緊張が少しずつほぐれていった。

### 奇跡の復活をとげた鉄路

名松線は三重県の松阪駅から伊勢奥津駅まで43・5キロの路線である。

その道中は実に変化に富んでいた。

松阪を出て市街地を走りぬけた列車は、一志駅を出発すると里山へと入り、途中の家城駅で対向列車と並んで小休止する。運転士と駅員がスタッフを交換し、白山高校の生徒たちを乗せた松阪行きが発車すると、こちらにも出発である。

駅を出てすぐに大きく左に曲がると、雲出川が迫ってきて、線路は山あいへ分け入っていく。右に左に曲がりトンネルをくぐり川を渡る。刻一刻と風景が変わるので車窓から目が離せない。

唸るエンジン音をBGMに約30分。谷間を越えて、まさにひだまりのような小さな平地に出ると、伊勢奥津である。ゆつくりと停車した気動車がふうと一息つくような音を立てると、扉が開いた。

名松線は当初、松阪から奈良県の桜井までを結ぶ路線として計画された。だが途中で三重県の名張までに変更され、さらに伊勢奥津から名張までは、競合路線が開通したあおりで、計画見合わせとなった。

伊勢奥津のある美杉村（現・津市美杉町）の人々にとっては念願の鉄道だった。1935（昭和10）年に全線開通した日は「総休み」にして、住民総出で祝賀会を開いた地区もあったという。

「初めて乗ったのは小学校に上がる前。開通して間もない頃で、蒸気機関車の時代ですよ。嬉しくってね。車内で大声で歌って、周りに驚かれました」

昼食を食べ終わったところで、結城實さんが来てくれた。御年91歳。生まれも育ちも美杉。大学進学で故郷を出たが、卒業後に戻り、美杉地域の小学校の教員として校長まで勤め上げた。

「なくてはならない存在ですよ」

## GO!GO! 名松線 / 1

### ● 名松線グッズ



### 読者プレゼント

松阪駅前の観光情報センターや伊勢奥津駅前の「ひだまり」などで名松線グッズが購入できる。マグネットやメモ帳など種類も豊富。沿線の風物が描かれたマスキングテープとヘッドマーク形のピンバッジのセット（写真）を3名様にプレゼント。詳しくは75頁をご覧ください





おいしいもんには  
わけ  
理由がある

第61回

文・土井善晴  
Doi Yoshiharu  
写真・岡本寿  
Okamoto Hisashi





広く欧州、中国大陸へと開けていた長崎ならではのなし料理が、いまでも当地に伝えられています

# 世界を味わう卓袱料理

《長崎市》

[右]「史跡料亭 花月」の卓袱料理(2人前)。花月では最初の「鱈椀(吸い物)」から最後の「梅椀(汁粉)まで、15品が基本。中央の網目状の料理「バスティ」は、魚介のスープにバスタ生地を網目状にしてかぶせ、焼いたもの。右下は鯨肉で、大海に面した長崎らしい食材だ [左] 寺町の崇福寺山門前で。鮮やかな朱塗りが施され、上部の屋根下には蝙蝠(こうもり)などの吉祥文様が描かれている

どい よしはる / 1957年、大阪府生まれ。料理研究家、十文字学園女子大学特別教授。NHK「きょうの料理」に出演。『一汁一菜でよいという提案』(新潮社)、当連載をまとめた『おいしいもんには理由がある』(ウェッジ)など著書多数。



長崎で「卓袱料理」を食べてきた友人が「よかつたよ」と言っていたなあ。しかし、私はまだ卓袱料理というもてなしの席についたことはないのです。以前、この連載でシュガーロードをテーマに長崎を取材し、南蛮菓子を大いに楽しませてもらいました。長崎の人が築いてきた世界との交流への敬意を、今回の目当て「卓袱料理」に重ねます。「南蛮文化、南蛮美術、南蛮屏風、南蛮絵、南蛮鐺、南蛮菓子の『南蛮』とは何であるかをこの旅で感じたい」。司馬遼太郎は『街道をゆく』22巻「南蛮のみち」でこう記していますが、私の興味はやはり料理の中の「南蛮」にありました。小魚を揚げて酢に浸したものを「南蛮漬け」、鰯の南蛮漬けなら「カピタン」(キャプテンの意)。鶏に唐辛子味噌を塗りつけて香ばしく焼き上げるのは「鶏の南蛮焼き」。蕎麦屋さんには葱の入った「鴨南蛮」。案外、身近なところに「南蛮」があるようです。長崎に到着したら、すでに時分どき。さつそく茶碗蒸しで有名な「吉宗」へ。すっかり日本料理になって澄ましている茶碗蒸しも、元は南蛮料理です。錦糸卵、桃色に

色付けされた白身魚のどんぶ、穴子蒲焼のそばろで彩り鮮やかな蒸し寿司とセットになり、どちらも同じ蓋もの(鉢)で供する老舗の合理性は力強く、好きだなあ。

## 西洋と中国とが、日本で融合

1634(寛永11)年に架けられた現存最古の石橋、眼鏡橋の一つ上流、魚市橋に立てば、中島川で飛び石渡りを楽しむ子供たち。のどかな風景を眺めるうれしいひとときです。眼鏡橋と美しい「渡し」を心に留め、山沿いの寺町に向かいます。ふたつの神社と14のお寺が並ぶ通りで、崇福寺は、1629(寛永6)年、明末から清初期の建築様式そのままに、福建省出身者らが創建。また、黄檗禅宗の興福寺(1602年創建)には、黄檗宗の開祖・隠元和尚が1654(承応3)年に住職として1年間滞在。この時、和尚はインゲン豆、もやし、落花生、西瓜、蓮根、茄子、孟宗竹などをもたらしました。唐風の寺院が並ぶ寺町の散策は、中国や台湾にきたようです。

続いて長崎歴史文化博物館を訪ねました。長崎の旅は歴史を知ると特に楽しいのです。